

# ICT の特徴を効果的に活用した音楽科授業に関する一考察

教育学研究科 芸術教育専攻音楽科教育学領域 高田みずほ

この論文は、教育現場での ICT の活用について、より良い使い方を模索したものである。これまで多くの教育現場において、ICT 活用が導入されてきた。ICT を使うことでこれまでにない授業が展開できたり子どもの理解を促したりと、様々な効果が期待出来る。しかし中には、ICT を使うことが目的になってしまっていたり、機器の特徴に応じた使い方や自然な使い方ができていなかったりするものもある。本論文では、ICT の特徴を効果的に活用し、子どもからも教員からも使いやすく効果が得られる ICT の使い方を模索していく。

そこで本論文では、第2章でこれまでの教育現場での ICT 活用例を紹介していく。また、ICT の機能や特徴に応じて使い方を分類し、その利点及び改善点等について検討する。第3章「ICT に関するアンケート調査」では、教員養成大学の学生を対象に普段使用している ICT 機器と教育現場で使用したい ICT 機器に関する調査を行った。すると、普段はスマートフォンやコンピュータといった機器を使用している学生が多かったが、教育現場ではスマートフォンを使用したいと答えた学生はほとんどいなく、逆にタブレット機器等の普段使用していない機器についても使用したいと答えるものが多かった。普段利用している機器ほど娯楽として認識しているのか、教育現場で使う機器と分けて考えているようであった。本論文では、この「普段使用する機器と教育現場で使用する機器及び使用の仕方のずれ」を教育現場で ICT が浸透しない理由の一つとして挙げていく。また、第4章「タブレット端末を用いた創作の授業実践」では、近年話題となっている一人一台の可動式 PC（今回はタブレット機器）について、実際に音楽における創作の授業で活用した。授業の前半はワークシート上で表したい気持ちから歌詞を作ったり旋律のヒントを考えたりする活動、後半は前半のワークシートでの活動をもとに、タブレットを用いて実際に音を出しながら創作をする活動を行った。すると、多くの生徒がワークシート上では活動できていたものの、タブレットの作業に移行してから手が止まってしまった生徒もいた。原因として、タブレットの作業に移った後にタブレット任せになってしまっていたことがあげられるだろう。タブレットの活動に移った後も、本来創作の授業に必要な手順を、順に追って指導していく必要があったと考えられる。

ICT を効果的に活用することで、様々なことが可能になるだろう。しかし、ICT はあくまで授業をより良いものにするツールに過ぎない。授業を行うものは、なぜ ICT を使用するのか、授業のどの箇所に使用すると効果的か、使用することで子どものどのような力を伸ばしたいか、明確にする必要があると考える。